

文教厚生委員会視察研修報告

○日時 平成 26 年 7 月 8 日（火）～7 月 10 日（木）

○研修先 千葉県山武市「認定こども園」

千葉県鴨川市「亀田総合病院」

千葉県旭市 「国保旭中央病院」

東京都調布市「市立図書館」

東京都立川市「地域包括ケアシステム」

当委員会では、「地域医療について」を調査研究のテーマとし、地域医療が抱える問題などを中心に委員会活動を行っている。今回の視察目的は、「地域医療のあり方」に重点を置き、その他市の重要課題に関して視察研修を行った。

千葉県山武市「認定こども園」

来年、4 月から、国の「子ども・子育て制度」が大きく変わり、その目的の一つが「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」となっている。

この制度改正により、幼稚園機能と保育所機能を併せ持つ「認定こども園」制度が実施されることから、園整備に積極的に取り組んでいる千葉県山武市の「市立しらはたこども園」を視察した。

今後、牧之原市でも幼保一体型の園が増えていくことが予想されるが、「こども達のためにどうあるべきか」を考え、幼児教育、幼児保育の課題に取り組んでいかなければならないことを再認識した。

千葉県鴨川市「亀田総合病院」

千葉県鴨川市にある「亀田総合病院」は、「もう一度入院したくなる病院」と言われ、患者さんに対する徹底したサービスを行っている。また院内には美容院、ショッピングセンターのほか、眺望の素晴らしいレストランなど様々な施設が備えられている。これらはすべて利用者の要望に合わせる姿勢の積み重ねということであった。

院長の強い理念・信念のもと、全ての職員が、それを共有し一体感を持つことで、利用者へ上質なサービスの提供が生み出されていることを感じた。

千葉県旭市「国保旭中央病院」

旭中央病院は、開院以来 60 年にわたり地域の中核病院としての役割を果たし、多くの自治体病院が赤字経営に苦しむ中でも開院以来、黒字経営を続けている公立病院である。

一貫して地域医療に取り組み、千葉県東部から茨城県までを含む人口約 100 万人の基幹病院として、毎日 3000 人近い外来患者がある。「すべては患者さまのために」の基本理念のもと、一人でも多くの患者を受け入れることに力を注いでいる。

「医師の定着と確保の対策」は、当市の榛原総合病院が抱える大きな課題でもあり、旭中央病院における具体的取り組みについて説明を受けた。全国トップレベルである病院の取り組みのほんの一部でも、当市の地域医療体制に反映できるようにしていきたい。

東京都調布市「市立図書館」

牧之原市の図書館は、小規模であり、かねてより中央図書館設置の要望も強い。そこで、中央図書館を核として10の分館で構成され、住民サービスで評価される「調布市立図書館」を視察した。

調布市は、人口約22万6000人。歩いていける範囲の図書館として10の分館が設置されたということであった。公共図書館は、そのまちの文化度のバロメーターと言われることもあるが、牧之原市における公立図書館のあり方を考える時が来ていることを強く感じた。

東京都立川市「地域包括ケアシステム」

牧之原市の65歳以上の高齢者は、1万3000人。高齢化率は26.8%で、全国平均23.3%に比較しても高い数字で、少子高齢化が早いスピードで進んでいる。今後、地域福祉の重要性が増し、「地域包括ケアシステム」の構築が急務となっている。そのことから、行政、社会福祉協議会、地域包括支援センターの協働によるシステム構築の先進地である東京都立川市の視察研修を行った。

それぞれの地域にあわせたシステムの構築のやり方はあるが、この研修で、行政を中心とした社会福祉協議会、地域包括支援センター等の連携（まとまり）が一番必要だと感じた。



千葉県山武市「認定こども園」



千葉県旭市「国保旭中央病院」



東京都調布市「市立図書館分館」